

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3270100732		
法人名	医療法人 仁風会		
事業所名	雲陽の里		
所在地 (電話番号)	松江市大庭町1459-1 (電話) 0852-23-3700		

評価機関名	財団法人 出雲市ひらた福祉公社		
所在地	島根県出雲市平田町2112-1 平田福祉館2階		
訪問調査日	平成20年2月25日	評価確定日	平成20年3月16日

【情報提供票より】(20年 2月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 2 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算	5.6 人

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="radio"/> 併設 <input type="radio"/> 単独		<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築	
建物構造	鉄筋平屋 造り			
	1 階建て	1 階 ~	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	有() 円 <input checked="" type="radio"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 <input checked="" type="radio"/> 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(2月14日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.5 歳	最低	68 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	八雲病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

雲陽の里は、精神科・神経科・神経内科の各科を有する病院を核とした医療法人の一施設として、平成14年に開設された。東に茶臼山を望み、すぐ北を馬橋川が流れる。住宅地の中にあってもホーム周囲の田畑や史跡など、四季を感じることができる自然環境に恵まれている。加えて、近くを走る国道や県道沿いには各種の商店も多く立ち並び、大型スーパーもあり、暮らしやすい生活環境である。医療法人の強いバックアップを柱に、「人と人とのふれあいの中で暮らす…、ここは、我が家」を目標に掲げ、「利用者の心の声を大切に、介護の質の向上に努め、日々を静かに暮らす。」ということスローガンしてのケアと支援の追及、そして、更なる地域との交流を目指した取組みがなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホームでできることから一つずつ、改善に向けた取り組みは行われているが、利用者の意向や思いを捉え、生活の中に生かし、その人らしい個々の暮らしを作り上げることへの支援、或いは、日常的な外出支援等について、取り組みが不十分な項目が残されている。これまでの外部評価も併せ、全職員で課題を共有化し、運営推進会議で検討を行い、改善に向けて取り組むことが望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、職員共に評価の意義を十分に理解しており、全職員で自己評価を行い、より利用者本位のサービス提供を目指している。そして評価を基とし、さらにホームの質の向上に取り組もうとする姿勢が窺えた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に一度定期的開催され、ホームの運営状況等が報告され、またサービスの提供等に関して協議・検討がなされている。会議録はファイリングし全職員への周知が図られ、必要に応じカンファレンスでも取り上げ、ホームの運営やサービス改善に生かす取り組みがなされている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書にホームと行政の窓口が明示され、利用者及び家族に対する説明がなされている。外部委員も委嘱し、ホーム内に明示し、毎月苦情処理委員会を開催し、運営に反映させる取り組みがなされている。加えて、何よりも外部評価項目5と併せ、全ての家族に対し、運営推進会議への参加の呼び掛けがなされているのは評価できる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>法人の他事業所と協同し、行事や防災に関してのボランティアの受け入れを始めとして、秋に大きな祭りを開催し、地域住民を招聘し、交流を図るなどの取り組みが行われている。また、他の事業所と連携して、地域防災連絡会議(ネットワーク)に参画し、小・中・高の学校を始めとし、各種学校の体験学習や、ヘルパー研修の受け入れも行っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	日常の触れ合いや関わり合いを通して、利用者の思いや意向、希望を汲み取り、それぞれのふれあいを大切に、明るく楽しい生活を送っていただくよう、ホーム独自の理念を創りあげ明示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の新規採用時、異動時にはホームの理念についての話がなされており、ケアカンファレンス時等の機会を通して、理念の具現化に向けてのケアのあり方等に関する協議・検討も実施されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の他事業所と協同し、行事や防災に関するボランティアの受入れを始めとして、秋に大きな祭りを開催し、地域住民を招聘し、交流を図るなどの取り組みが行われている。また他事業所と連携して、地域防災連絡会議(ネットワーク)に参画。各種学校の体験学習や、ヘルパー研修の受け入れも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員ともに、評価の意義は理解しており、全職員で自己評価を行い、より利用者本位のサービス提供を目指している。前回の外部評価で指摘があった事項に関しては、改善に向けての取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度定期的に行われ、ホームの運営状況等が報告され、またサービスの提供等に関して協議・検討がなされている。委員会から出された意見は、記録をファイリングし、必要に応じてカンファレンスでも取り上げ、ホームの運営、サービス改善に生かす取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市の担当部署への情報提供への報告を兼ね、協議するなど、密に連携をとっており、サービスの質の向上を目指し取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に利用者の状況報告はしており、状態急変時には都度電話にて報告がなされている。金銭管理については、面会時に利用者個々の出納帳と現金、領収書の確認をしてもらい承認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームと行政の窓口は明示・説明されている。外部委員も委嘱されホーム内に明示され、毎月苦情処理委員会を開催し、運営に反映させる取り組みがなされている。加えて、上記外部評価項目5と併せ、全ての家族に対して、運営推進会議への参加の呼び掛けがなされているのは評価できる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、馴染みの関係の中でケアが提供されることの重要性を十分に理解し、ここ2年半職員の交代はなく、顔なじみの職員でケア提供がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加はもとより、毎月開催される法人内研修に参加している他、ケアカンファレンスで提供された情報に関して、職員で協議・検討を行い、資質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区の介護サービス事業者連絡会に加入し、他事業所と情報交換やケアカンファレンス等の研修を通しての連携は図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなり利用開始するリスクを説明し、事前にホームを見学してもらい、雰囲気等を感じてもらってからの利用を心がけている。利用開始直後は、利用者の状況等を把握し、場合に応じて家族に面会を依頼するなどし、利用者が極力混乱を招かないような手立てが取られている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	“利用者主体”を基本とし、職員は利用者の意思や思い等伝えたいことを受容する態度で接するよう心掛けており、利用者の活動に対しては、感謝や御礼、ねぎらいの言葉を掛けるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや望まれる生活を聴き、意向に添うように努め、利用者本人の意向把握が困難な場合には、あくまで“利用者本位”に主眼を置き、家族から話を聞いたり、日々の生活の中での利用者の行動や言動を観察することで、意向を把握しそれに添うよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的に全利用者について、全職員でアセスメントを行い、協議・検討を重ね、課題の把握を行い、介護計画に反映し共有化を図るような取組みが行われており、モニタリングに際しては、本人や家族の意向等も反映させるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は認定期間終了時、利用者の状態等に変化があった場合に見直しはなされ、職員で共有化しており、医師や専門職からの意見も反映されているものの、家族や利用者の意見を都度介護計画に取り入れたり、毎月のモニタリングが行われていない。	○	日々の暮らしの中から利用者の直面する生活ニーズを把握し、利用者の状態に合ったケアが介護計画に基づき提供できるよう、月毎のモニタリング(評価・検証)と、少なくとも3ヶ月毎の見直しは必要であり、利用者の自立支援を目的とした介護計画策定に向けての取組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族のそれぞれの状況に合わせ、法人内の他の事業所と連携を取りながら、必要な支援には柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族等の希望に基づき、かかりつけ医でも医療が受けられるよう支援している。また法人が医療法人であることから、関連病院との連携は取れており、週1回の定期受診も行われている。歯科受診が必要な利用者については、訪問歯科診療などの支援もなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームに看護師が勤務しており、医療連携体制加算が取られている。重度化や終末期に向けての対応は、個々の状況に応じ主治医も交え、事前に本人や家族と、将来の方向性等についての話し合いがなされ、内容に関してはケアカンファレンス等を通して、全職員での共有化が図られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室に入る時は必ずノックや声掛けがなされており、衣服の乱れや汚れ、排泄介助の際もプライバシーを大切に、そっとカバーするような対応を心掛けるなど、利用者の尊厳に十分な配慮がなされている。また、記録等の個人情報に関してはスタッフルームで管理がなされ、その取扱いに注意が払われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合にならないよう、利用者一人ひとりのペースに合わせた利用者主体のケア提供が見受けられ、ヒアリングからも、職員の都合に合わせてではなく、利用者個々のペースに合わせた柔軟なケアへの心遣いが窺えた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理等食事の準備は職員が行い、利用者は配膳をテーブルで待っており、食事中は殆ど会話も聞かれない。食事中職員はキッチンから見守っている状況であり、利用者と一緒に準備や食事、片付けなどは行われていない。	○	献立作りから調理、片付けに至るまで、食事に関する一連の流れを職員が一方的にすすめるのではなく、また、利用者が介助される側にならないような配慮の中で、食事を楽しめるような支援が望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者個々の希望に添い、午後3時頃より一人ずつ入浴できるような体制が取られている。入浴拒否傾向の利用者に対しては、決して無理強いせず、様子を見ながら、声掛け等を工夫しながらできる限り入浴していただくよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々の能力や状態に応じ、居室や共用スペースの掃除、洗濯物干しなどは行われてはいるものの、職員が勧めたプログラムに沿ってのレクリエーションであり、加えて、やる気のない利用者に対しての働きかけがなされてはならず、利用者個々への生き甲斐への支援としては不十分な感を受ける。	○	張り合いやよろこびを持って、毎日の暮らしが送れるよう、アセスメントを通して、利用者個々の望むことや得意なこと、やりたいことを捉え、ホームの中で自分の役割や趣味を持って暮らせることができるような働きかけが望まれる。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩や周辺施設の利用、レクリエーション外出は行われているが、職員体制の関係から、日常的な外出支援の取り組みは不十分である。	○	ホームの周囲には、自然や、住宅、スーパーなどがあり、散歩や買い物など気分転換につながる日常的な外出支援の環境には恵まれているので、利用者の希望に沿った外出支援を行っていただきたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関が施錠されることはなく、利用者、家族等とも自由に入出りができる。また、外出傾向者など利用者個々の行動パターンを把握し、安全面での配慮を行っている。夜間については、防犯上の理由により施錠されているが、家族等の来訪対応は行われている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム単独での避難訓練に加え、消防署の立会いの元で、隣接する法人の他の事業所等と合同での避難訓練も行われており、日頃から災害対策に取り組むとともに、夜間も含め、他事業所等との協力体制も充実している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医や協力病院の管理栄養士と連携し、利用者個々の状態に応じての個別対応がなされ、食事と水分摂取状況の把握もなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、台所、トイレ等共用空間はスペースが大きく取られており、食堂を兼ねた居間は吹き抜けで外の光を多く取り入れる構造であり、白を基調とした空間は掃除も行き届き清潔である。 花も置かれており、季節感も感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置かれたホーム設置の家具は木目調であり、利用者の家から使い慣れたテーブルや椅子、テレビや家具の持ち込みもあって、利用者個々の希望にそった居心地のよい環境づくりがなされている。		